

サポセン

だより

第5号
2022.3

「サポセン」は、埼玉県障害者雇用総合サポートセンターの愛称です。

特集 ① 障害者と共に働く企業インタビュー

特集 ② 障害者eスポーツの取り組み

今回のサポセンだよりの特集は、障害者雇用に取り組む事業者さんへのインタビューとeスポーツを通じた障害者雇用の取り組みの2本立てです。

広大な敷地で障害のある方と一緒に働く農園さんの熱い想いと、今話題のe(エレクトロニック)スポーツがどのように障害者雇用に結びつか御紹介させていただきます。

特集 ① 障害者と共に働く企業インタビュー

最初の特集は、羽生市の農事組合法人ハイフラワーさんへのインタビューです。

障害がある方の雇用に至った経緯など、興味深いお話を伺うことができました。

■企業概要

名称 農事組合法人ハイフラワー（羽生市）

事業内容 花壇苗、イチゴ、露地野菜の生産

従業員数 92名（常勤15名、パート77名）

障害のある従業員数 2名（知的）



ハイフラワーの農場。10haの広大な敷地に何棟ものビニールハウスが建っている。

農事組合法人ハイフラワー

理事 ^{はら}原 ^{かずみ}和己 さんにお話を伺いました。



理念について

この農場は平成8年に3人の花を愛する花壇苗生産者が力を合わせて設立しました。

農場の名前をつけようとしたのですが、3人の花への思いを一つの言葉にすることは難いため、3人の頭文字をとって「H.A.I.Flower」と名付けたことが法人名の由来です。

経営理念は「花を育て」「人を育て」「幸せを育てる」。花を育てるなかで、障害のあるなしに関わらず人を育て、そして生産者・販売者・花の購入者など花に関わる全ての人が幸せになることを目指しています。

障害者雇用のきっかけ

平成10年に、大型農場の特集でこの農場がテレビで紹介されました。

それを見ていた障害のある方のご家族の方が「ここなら弟も働ける」と感じて、はるばる三重県から本人を面接に連れてきたのがきっかけです。

受け入れはスムーズでしたね。戸惑いはありませんでした。

業務は、主に鉢に球根を植えてもらったり、後片付けや作業の際にできる余分な草木の回収をやってもらっています。



出荷待ちの鉢植え

球根を植え、ラベルを差し込むことが障害のある従業員の作業。

チームワーク

我々は「チームワーク」を重視しています。農場ごとに担当が分かれていて、早く作業が終わるところもあるのですが、それで終わりではなく遅れているところにサポートに入るよう指示しています。

障害のある従業員に対しても同じ。他の社員には、ほったらかしにしないで作業状況をチェックして必要に応じてサポートするよう言っています。

配慮していること

実は、特に意識して配慮していることはあまりないんです。他の社員と同じように接しています。

他の社員と同じように注意することもありますし(笑)。

まあ、そんな時にストレスを貯めないよう、社員にはよく話を聞いてあげるように言っていますが、それぐらいです。

他の社員と同じように、いろんな仕事に挑戦してやりがいを感じてもらおう。そのようにしながら、「また明日も来なくなるような職場」をつくるようにいつも考えています。

今後の障害者雇用

現在2人の障害のある従業員が働いていますが、ハローワークを通じて更なる採用を考えています。

採用で重視するのは本人の「やる気」。「この農場がいい」「ここで仕事をしたい」と思ってくれる人と一緒に仕事をしたいです。



一面に咲き誇る、色とりどりの花。常時100種以上の草木が栽培されている。



サポセン 当事者 インタビュー

平成14年からハイフラワーに勤務されている、石合真己さんいしあいまさきにお話を伺いました。



石合さん

- Q どんなお仕事をしていますか？
- A 農場の片付け、除草、ポットへの土入れなどです。
- Q 仕事はいかがですか？
- A いろんな仕事ができる楽しいです。
- Q 大変なことは？
- A 時々、厳しく注意されたりすることです(笑)
- Q 働いていて、どんな事が楽しいですか？
- A 忘年会や寄せ植え大会のイベントがあります。時折花をプレゼントされることも嬉しいです。
- Q 将来、どんな仕事をしてみたいですか？
- A いろいろな人と一緒にできる仕事を増やしていきたいです。

「人を育てる」技術

ハイフラワーの経営理念にもある「人を育てる」これは、仕事を通じて皆が成長するための「技術」として意識されています。

原理事は「障害のあるなしに関わらず、誰でも得手不得手がある」「得意なことを伸ばし、いろんな仕事ができるようになってほしい」とおっしゃっています。

実際に、最初は片付けなどしかできなかった障害のある従業員が、いろんな仕事を挑戦させることで今では機械を使った作業ができるようになったそうです。



鉢をセットする機械「ポットサーバー」

障害のある従業員は慣れた手つきで動かしているとのこと。



特集 ② 障害者eスポーツのとりくみ

次の特集は「障害者eスポーツ」です。eスポーツとはビデオゲームを使った対戦競技で、近年では世界大会が開かれるなど非常に注目されています。

今回、このeスポーツと障害のある方の幸せを結びつけようと活動している株式会社「ePARA」の代表の方に、その取り組みについて伺ってきました。

■企業概要

名称 株式会社ePARA

事業内容 障害者就労支援、eスポーツイベント運営 等

従業員数 3名

障害のある従業員数 2名(身体)

株式会社ePARA

代表取締役 かとう だいき 加藤 大貴 さんにお話を伺いました。



会社設立の契機

元々は福祉サービス事業所に勤務していたのですが、障害者でも優れた能力のある人がたくさんいるのに気づき、それが活かされていないことに「もったいないな」と思うようになりました。

やり方次第では、障害者本人の能力をもっと引き出せる、彼らの活躍の場を増やせると思い、それを実現したいと思い会社を立ち上げました。

eスポーツに着目したのは、3年ぐらい前です。

昔からゲームが好きだったのですが、eスポーツが注目され始め、こういったテクノロジーを使えば、障害者が持っている優れた能力を世間に知らしめることができるのではないかと思ったのがきっかけです。

障害者雇用へのつながり

eスポーツの中では、障害のある方もない方も変わりません。プレイを見ていると「判断力に優れる」「協調することが苦手」などがわかってきます。

これはプレイ中だけでなく、例えばゲームイベントの運営を任せてみても同じで、「落ち着いて対応できる」「プレッシャーを感じて参ってしまう」などその人の得意不得意を浮かびあがらせます。

この得意不得意を把握することが非常に大事で、得意分野はもちろんですが、不得意分野を理解することで、就労支援を効果的に進められマッチングにも役立つと思います。

eスポーツによる障害者雇用の将来

マクロ的に言えば、今後eスポーツはもっと盛んになり、それに伴い障害者の対外的コミュニケーションの機会も増えてくると思います。

ただ、eスポーツは一つのツールに過ぎなく、会社が目指しているのはテクノロジーを使って、障害者の活躍の場を広げることです。

わが社には全盲の社員と筋ジストロフィーの社員がいますが、全盲の社員は音声チャットを使い、筋ジストロフィーの社員は顎でキーボードを操作して、それぞれ議事録を作成することが出来るのです。

会社の理念にもつながってきますが、ますます発展するであろうテクノロジーを使うことによって、障害があっても健常者と同じように活躍でき輝ける社会、ひいては障害者・健常者の区別なく誰もが自分らしく生きていける世界をつくりたいと思います。

「ePARA」のPARAは平行な線を意味するパラレルから。今は平行かもしれない障害者・健常者の2本の線がいつか交じり合うために頑張りたいと考えています。

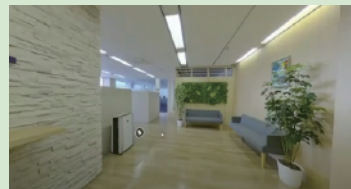
裏面は実際にeスポーツの選手として活躍される二人の方へのインタビューです。

ePARA VR/テレワーク就活Fes

ePARAさんが昨年4月に主催した就活イベント「ePARA VR/テレワーク就活Fes」

コロナ禍における障害者の就職環境の悪化や、対面での就職説明会・面接の機会減少の対応策として、全てオンラインで実施されました。

web上に企業説明ブースを設置するなど、興味深いコンテンツが豊富で、求人企業10社、求職者約300人の参加がありました。



就活Fesのコンテンツのひとつ「バーチャル職場体験」。
実際に企業内を歩いているかのように画面が推移し、臨場感たっぷりに職場風景を体験できる。



サポセン 当事者 インタビュー

日本で360万人と言われるeスポーツ人口。選手寿命は短く、練習時間は1日10時間以上はザラという厳しい世界。

今回はそんなeスポーツの世界で障害がありながら活躍されているお二方、「S.H.O.W」さんと「むぎ」さんにインタビューをしました。



S.H.O.Wさん(右)とむぎさん(左)

Q 普段はどのようなお仕事をしていますか？

○S.H.O.Wさん
「イベント運営やゲームのコーチングですね。最近、福祉介護事業所を立ち上げました。」

○むぎさん
「普段はコールセンターで業務していますが、週に1回ゲームのコーチをしています。」

Q eスポーツを始めたきっかけは？

○S.H.O.Wさん
「急性骨髄性白血病になり、あまり運動ができなくなっていたのですが、ゲームが好きでその頃から注目されたeスポーツの大会で優勝したことです。」

○むぎさん
「2年前の大会で優勝し、eスポーツを業務向上のツールとして使っている会社から誘われました。」



Q eスポーツでどのような能力が伸びましたか？

○S.H.O.Wさん
「練習・対戦・反省・実現のプロセスを学びました。一歩ずつ進んでいくこと、これはコーチングに生きていると思います。」

○むぎさん
「人と関わるのが苦手でしたが、コミュニケーション能力が上がりました。」

Q 将来eスポーツを通じてどんな事をしたいですか？

○S.H.O.Wさん
「私と同じように体の不自由な方に、eスポーツの楽しさを伝え、生きる力にしてもらいたいですね。」

○むぎさん
「自分はいじめに合って、人と接することが嫌になっていましたが、eスポーツに出会い人生が変わりました。活躍して、同じように苦しんでいる人の希望の星になりたいです。」

埼玉県障害者雇用総合サポートセンターのご案内

埼玉県障害者雇用総合サポートセンターは、埼玉県が運営する企業の障害者雇用を支援する専門機関です。企業の障害者雇用を全力でサポートします。



ホームページはこちらから

所在地
〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎 別館1階

利用時間
月～金 午前8時30分～午後5時
(祝日及び12/29～1/3を除く)



【交通】 JR北浦和駅西口から徒歩約10分

1

雇用に
適した仕事を
提案します

2

雇用体験が
できます

3

働きやすい
職場づくりを
助言します

4

職場に
付き添って
支援します

雇用開拓業務部門

障害者雇用開拓員が企業を訪問し、障害者雇用制度の仕組みや各種支援について情報提供します。



☎ 048-822-3111

企業支援業務部門

障害者雇用に向けて、専門のアドバイザーが具体的な助言・提案をします。
短期(3日～5日)の雇用体験(職場体験実習の受入)ができます。

☎ 048-827-0540

定着支援業務部門

障害のある人が職場に適應できるよう、ジョブコーチを派遣しサポートします。
支援機関のスキルアップもお手伝いします。

☎ 048-823-9020



動画はこちらから

埼玉県では、障害者雇用のメリットやサポセンの支援をYouTube埼玉県公式チャンネルから「サポセンPR動画」の配信をしています。約10分の見やすい動画です。ぜひ一度ご覧ください。

障害者雇用に関するちょっとした困りごとは「障害者雇用ヘルプデスク」にお電話ください。

障害者雇用ヘルプデスク
ココウヲツナイデ
☎ 0120-540-271